

Cardiopulmonary exercise testing for patients with anorexia nervosa: a case-control study

山下, 真

<https://hdl.handle.net/2324/6787699>

出版情報 : Kyushu University, 2022, 博士 (医学), 論文博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)

氏名： 山下 真

論文名： Cardiopulmonary exercise testing for patients with anorexia nervosa: a case-control study

(神経性やせ症患者に対する心肺運動負荷試験：症例対照研究)

区分： 乙

論文内容の要旨

目的：神経性やせ症（AN）患者には、適切な栄養療法と身体活動管理が必要である。摂食障害治療ガイドラインには、安全でエビデンスに基づいた運動強度基準が記述されていない。本研究では、心肺運動負荷試験（CPX）を用いて、AN患者の運動耐容能を評価した。

方法：2015年から2019年にかけて摂食障害専門病棟に入院した女性AN患者14名を対象にCPXを実施した。CPXを用いた運動耐容能の評価により彼女らの嫌気性代謝閾値（AT）を決定し、14名の健常対照者（HC）と比較した。ATに到達した際の代謝等価値（AT-METS）を比較した。AN群のAT（AN-AT）に関連する因子として、年齢、BMI（body mass index）、過去の最低体重、最低BMI、過去のBMI<15の期間、運動歴、 Δ HR（AT時の心拍数-安静時心拍数）等を検討した。

結果：AN群（BMI：15.7 [Mean] \pm 1.8 [SD]）のATはHC群（BMI：19.7 \pm 1.8）に比べ有意に低かった（AN：10.0 \pm 1.8 vs. HC：15.2 \pm 3.0 ml/kg/min、 $P<0.001$ ）。AT-METSもAN群ではHC群に比べ有意に低かった（AN：2.9 \pm 0.52 vs. HC：4.4 \pm 0.91、 $P<0.001$ ）。AN-ATは Δ HRの影響を強く受けていた。

結論：本研究により、AN患者においてATおよびAT-METSがHCよりも低いことが示された。AN患者には軽強度の有酸素運動を処方すべきであり、今回の知見は今後のAN患者の身体管理指針の策定に役立つと思われる。